オーディオ実験室収載

スピーカーアキュライザーの活用(2)
－アナログ音源－

１．始めに

前報(1)のスピーカーアキュライザーSPA-7 の配置替えの結果を受けて、各種音源について試聴していきます。

２．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴方法

まずは、アナログからということで、聴きなれた下記の盤を使用します。

Deutsche Grammophon　483-6927/6928/6929
J.S.Bach　Sonatas & Partitas
Nathan Milstein（Vn）

ドイツグラモフォン MG9551
ベートーヴェン　三つのピアノソナタ（選帝侯のソナタ）
ゲザ・アンダ（ピアノ）

LONDON KLJC-9180/9184（RTI／キングレコード）
リヒヤルト・ワーグナー　ワルキューレ全曲
ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

EMI　AA　9117・C
フリードリッヒ・ヘンデル　メサイア
オットー・クレンペラー指揮フィルハーモニア

ACCENTUS MUSIC KKC 1171/3（45 回転盤）
スメタナ　我が祖国
ヤクブ・フルシャ指揮バンベルク交響楽団

３．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴結果

しばらくこれらの盤を聴いていませんので、記憶に頼っての配置替えの比較の印象では次のようになります。

Bach の Sonatas & Partitas は、ミルシュテインの弾くヴァイオリンのボウイングに力強さがでており、よりストレートな表現になっています。

ベートーヴェンの選帝侯のソナタは、打鍵に力強さが出ており、響きの豊かさが増しています。

ワーグナーのワルキューレは、オーケストラの押出し、迫力が向上し、ソプラノやメゾソプラノの声の張りも力強くなっています。

ヘンデルのメサイアは、合唱の迫力が増し、ソプラノやバスの声の張りが向上するとともに、通奏低音も明瞭になっています。
スメタナの我が祖国は、ダイレクトカッティングの 45 回転盤ですので、ダイナミックレンジが大きい音源ですので、そういった特性がどのように活かされるかがポイントです。今回の試聴では、ダイナミックレンジの確保はもちろん、終盤の盛り上がりの迫力は申し分ありません。

４．まとめ

前報(1)のスピーカーアキュライザーSPA-7 の配置替えの結果、全般的に力強さ、張りや押出が向上し、響きの豊かさが増していることが分りました。

以上